令和８年度

上宮太子高等学校　入学試験問題

国　語

（５０分）

〔注意〕次の(1)～(5)をよく読むこと。

注　意　事　項

(1)　この問題冊子は、「開始」の合図があるまで開いてはいけません。

(2)　問題は、1から3まであります。印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁等に気付いた場合は、挙手して監督者に知らせなさい。

(3)　解答用紙は、別に１枚あります。解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

(4)　受験番号・名前は、問題冊子と解答用紙の両方に記入しなさい。

(5)　「終了」の合図で、筆記用具を置きなさい。

受　験　番　号				名　　前

1　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

①本を読むことは自分の生き方と離して考えることはできません。人がどのように本を読んでいるかを見れば、その人がどんな生き方をしているかがわかるといってもいいくらいです。

ここで「どんな」本を読んでいるかではなく「どのように」本を読んでいるかを見ればその人の生き方がわかると書いたのは、②何を読んでいるかは人の生き方とはあまり関係ないからです。

A、本当に本を読むのが好きな人であれば、ⓐどんな本でも読みますし、乱読するからです。その中には「いい本」もあればそうでない本もあるかもしれませんが、そのようなことがわかるためには、誰かに薦められてではなく、自分で選んで本を読むという経験を重ねていかなければなりません。

本を読んでいるうちに、どんな本が面白いとか、読むに値するとか、あるいは、反対につまらないとか、時間をかけて読むに値しないというようなことが少しずつわかってきます。「どのように」本を読めばこのようなことがわかるようになったかという話を聞けば、その人がどんな生き方をしてきたかがわかります。

ⓑもしも自分で本を読んでどんな本を読めばいいかということを知ろうとするのではなく、いつも人から本を薦められてばかりの人がいれば、その人の生き方もまたそのようである、B人に依存して生きているということができます。

例えば、本に書いてあることが正しいとは限らないなどというのは当たり前のことだと思いますが、日常生活で自分では少しも考えないで、いつも誰かの考えに従おうとする人は、本を読む時も自分では考えないで、著者の考えを③鵜呑(うの)みにするでしょう。

もちろん、説得力のある本であれば、常は自分で考える人であっても、著者の考え方に同意するということは当然ありえますが、だからこそ、余計に自分で考えるよう努めなければならないのです。

「道聴塗説」という言葉があります。人から聞いたことを自分では理解しないで、そのまま他の人に伝えるということです。ある人の考えを聞き、なるほどその通りだと深く納得しても、他の人から違うことを聞けば、今度はそれを鵜呑みにして人に伝えるのです。

本を読む時も、著者の考えをそのまま無批判に受け入れ、その内容について自分では考えないで他の人に伝えるのでは本を読む意味はありません。

大切なことは、読書を通じて、自分のそれまで持っていた考えや生き方を振り返って㋐吟味し、さらには、自分の生き方を見直すということです。

本をどう読むかは生き方そのものを表しますが、本の読み方が変われば、生き方も変わってきます。

本を読む前と後で少しでも自分の生き方が変わらないようでは時間をかけて本を読んでもあまり意味がありませんが、本を読めば変わらないといけないのかということも含めて、読書と生き方について考えてみましょう。

働くことについて本を書いたことがあります。出版までの日があまりなかったので引き受けることを④躊躇（ちゅうちょ）したのですが、このテーマについては長く考えていたので引き受けることにしました。

担当の編集者の前で、働くことについて二時間ほど話しました。その話を元に本の章立て案を作ってもらえないかと頼んだら、一週間後、章立て案がメールで送られてきました。

驚いたことに、そのメールには、編集者が会社を辞めることにしたと書いてありました。私はその編集者に、人は働くために生きているのではなく、生きるために働いているという話を熱く語りましたから、私の話が編集者が自分の生き方を考え直すきっかけになったようでした。

もちろん私はその人が会社を辞めることを止めるわけにはいきませんでしたが、これから本を書いて出版するわけですから、担当の編集者がいないわけにはいきません。そこで、すぐに後任の編集者が決まりました。

数ヵ月後、その編集者の力を借りながら原稿を書き上げました。見本刷（みほんずり）を持って、編集者がやってきました。

「実は、私も会社を辞めることにしました」

新しい編集者がこのようにいうことを実はまったく予感していなかったわけではないのですが、さすがに二人が立て続けに辞めることになったことに私は驚かないわけにいきませんでした。

その編集者がいうには、本が好きで出版社に入ったのに、仕事で本を読むようになってからは、あれほど本が好きだったのに本を読むことが苦痛になってしまったということでした。

その後、その人は、フリーの編集者として自分が作りたいと思う本の編集だけを手がけるようになりました。

仕事のために（私の場合は研究のために、ということにⓒなりますが）本を読むことはいつも面白いというわけではありません。また、本を読むこと自体が目的になってしまっても、それはそれでつまらないことです。

本を読むこと自体が目的ではなく、限られた目的のために本を読むのでもありません。ちょうど人は働くために生きているわけではなく、生きるために働いているように、本を読むことも［　X　］の一つだと見なければなりません。何かの目的、仕事や気晴らしのために読むのでもありません。生きることから切り離された、あるいは限られた目的のためにだけ本を読むことは本来おかしいのです。

本を読むことの目的は、⑤端的にいえば幸せです。本を読んでいる時に幸せを感じられなければ、読書の仕方を見直す必要があるでしょう。

思考が自己との対話であるように、読書は著者との対話です。人は一人で生きているわけではありません。外に出かけないで家にこもって仕事をしていると、一日中、誰とも一言も言葉を交わさないということはあります。

たとえ誰とも話さなくても、本を読めば著者と話すことができます。読書を「対話」にするためには工夫がいります。ここで⑥「対話」と書いたのにはわけがあります。

実際の生活においても、話を聞くだけのことがあるように、本を読んでいる時も、著者から話を聞くように受身的（うけみてき）に読むことはあります。しかし、私は本を読む以上、書かれていることに共感、賛成するだけでなく、自分で考え、時には著者に反論するのでなければならないと思うのです。

何も考えずに読んでいるだけでは、対話にはなりません。試験のために、教科書やわずかな参考書を何度も読み返し、そこに書かれていることをしっかり理解し記憶すれば、試験に受かることはできるでしょうが、このような読書も著者との対話とはいえません。教科書を読んでいる時はあまりその内容について疑問を抱くことなく覚えることに全力を注いでるように思います。

しかし、読書を著者との対話にするためには、著者が何をいっているかをただ追っていくのではなく、本を読みながら自分でしっかり考えなければなりません。

著者がいっていることに㋑ムジュンがあるかもしれませんし、㋒大切なことなのにそのことにわざと㋓言及していないかもしれません。間違ったことをいっていることも当然あります。

私は長くカウンセリングをしてきました。人の話を聞くのがカウンセラーの仕事なのですが、ただ㋔ダマって話を聞いていればカウンセリングになるわけではありません。話を聞く時に、話されていることに注意深く耳を傾けることが大切であることはいうまでもありませんが、絶えずなぜ今この人はこの話をしたのだろう、次はどんな話になるだろうかと㋕スイソクしながら話を聞くのでなければ話を聞くことにはなら㋐ないのです。

［C］、思いがけない展開になることもあるのですが、予想していたような話にならないとしたら、相手の話を聞く時に自分の物差しを当てようとしていたからです。

（岸見一郎「本をどう読むか　幸せになる読書術」）

問１　傍線部㋐～㋕のカタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

問２　傍線部ⓐ～ⓔの品詞名として最も適当なものを、それぞれ次の**ア**～**コ**から一つずつ選んで、記号で答えなさい。（ただし、同じ記号は使ってはならない）

ア　動詞　　**イ**　形容詞　　**ウ**　形容動詞　　**エ**　名詞　　**オ**　副詞
カ　連体詞　　**キ**　接続詞　　**ク**　感動詞　　**ケ**　助動詞　　**コ**　助詞

問３　本文中の［A］～［C］に入れるのに最も適当な言葉を、それぞれ次の**ア**～**オ**から一つずつ選んで、記号で答えなさい。（ただし、同じ記号は使ってはならない）

ア　ところで　　**イ**　つまり　　**ウ**　もちろん　　**エ**　しかし　　**オ**　なぜなら

問４　傍線部①「本を読むこと」とありますが、筆者は読書において大切なことは何だと述べていますか。説明しなさい。（ただし「生き方」という言葉を使って記述すること）

問５　傍線部②「何を読んでいるかは人の生き方とはあまり関係ない」とありますが、なぜそう言えるのですか。その理由として最も適当なものを、次の**ア**～**エ**から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア　人から薦められた本を読んでいる場合も多々あり、その時々で読んでいる本の内容もまったく定まらないことが普通であるため、その人自身の考え方などとは無関係だから。

イ　本の内容よりもそれをどのように読んだかが重要であり、たとえその人にとって読むに値しないような本であったとしても最後まで読み切ることが生き方を表していると言えるから。

ウ　自分で選んで本を読むうちに、その内容について面白いとか面白くないとかを判断するのであって、読んでいる段階ではその人にとって読むに値しない本であることもあるから。

エ　自分で選んで本を読むうちに、自分の中ではどんな本が面白いとか、読むに値する本だとかいうことがわかってくるが、その過程こそがその人の生き方を表すものだから。

問６　傍線部③「鵜呑みにする」・④「躊躇した」・⑤「端的に」の意味として最も適当なものを、次の**ア**～**エ**からそれぞれ一つずつ選んで、記号で答えなさい。

③「鵜呑みにする」

ア　相手の意見に反論せず受け入れる
イ　信用せずに聞く耳を持たない
ウ　他人の言葉をそのまま信じる
エ　自分の意見を明らかにせず隠す

④「躊躇した」

ア　迷いためらった
イ　思いとどまった
ウ　あせって急いだ
エ　驚きあきれた

⑤「端的に」

ア　同じ意味の別の言葉で
イ　複雑でむずかしく
ウ　くわしくていねいに
エ　要点だけをとらえて

問７　本文中の［　X　］に入れるのに最も適当な言葉を、次の**ア**～**エ**から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア　読むことの喜び　　**イ**　生きる営み　　**ウ**　読むという営み　　**エ**　生きる喜び

問８　傍線部⑥『『対話』と書いたのにはわけがあります」とありますが、これについての理由を説明した次の文の［　　］にあてはまる内容を、本文中から十六字で抜き出して答えなさい。（句読点や記号を含む）

・読書とは、著者の意見を捉えるとともに、それに対して［　　］といった、著者と自分の意見のやりとりを行うべきものだから。

問９　本文の内容を読んだ後に、Aさん、B君、C君、Dさんが話し合いをしました。本文の内容にあてはまる意見には「○」、あてはまらない意見には「×」を付けなさい。

Aさん「『どんな』本を読んだかが人の生き方とはあまり関係がない理由として、本を読むのが好きな人は好き嫌いにかかわらずどんな本でも読むという人もいるからだと筆者は述べているわね。」

B君　「ぼくも読書が好きでよく図書館に行くのだけれど、目当ての本を読むというより目についた本をとりあえず読んでみて、面白ければその作者の別の作品を読むことが多いよ。筆者のいうように、大切なのはそうやって自分で面白いと思う本を見つけていくという行為なんじゃないかな。」

C君　「ぼくはインターネットの記事や口コミで評判になった本を読むようにしているよ。そうすることで自分の考えにとらわれない、いろいろな人の好みを知ることができると思うんだ。」

Dさん「私は小さい頃に読んだ本を今もたまに読み返すのだけれど、最初に読んだ時と後で読み返した時とでは、同じ話でも違った印象を持つことが面白いのよ。きっと成長とともに本に書かれている内容をより正確に読み取る知識が身についていくからだと思うわ。」

2 総合的な学習の時間に「日本の農業」について、生徒たちが資料をもとに話し合っています。これを読んで、後の問いに答えなさい。

A君　毎日ニュースで米の値上がりが取り上げられているけど、みんなはなぜお米の値段が高くなったんだと思う？

B君　ぼくは以前から言われていた［　Ⅰ　］が一番大きな理由なんじゃないかと思うよ。まず【資料１】を見てみよう。

Cさん　農業は第一次産業に分類されるんだったよね。【資料１】を見ると、たしかに第一次産業就業者はどんどん減少しているのに対して、［　Ⅱ　］産業就業者はどんどん増加しているようね。二〇二四年には、［　Ⅱ　］産業就業者は第一次産業就業者の［　Ⅲ　］になっているわよ。

Dさん　産業別に見ると、とてもかたよりがあるね。たしかに私も将来どんな仕事をしようかと考えると、きっとサービス業や事務職みたいな仕事に就くと思うな。

A君　【資料２】を見ると、農業従事者について［　Ⅳ　］という、高齢化が進んだ状態であることが読み取れるね。

Cさん　【資料３】からは、ほとんどの人に後継者がいない状態なのが分かるよ。後継者がいる人たちもほとんどが親族で、［　Ⅴ　］ということがうかがえるね。

B君　ただでさえ就業者数が少なく高齢化も進んでいるのに、これ以上人手が減っては農業が維持できなくなるね。そうなると食料を輸入に頼るしかなくなってしまう。それはとても困ることだよね。

A君　そういった問題を解決するために、最近すすめられているのが「スマート農業」らしいんだ。ロボットやＡＩなどの先端技術を使ったり、情報共有やデータの活用を進めたりすることで、少ない人数で効率よく行う農業のことだよ。【資料４】には先端技術の導入に関する経費の具体的な例、【資料５】には実際に「スマート農業」を導入した農業経営体のうちどれくらいがデータの活用まで行っているかの割合が示されているよ。

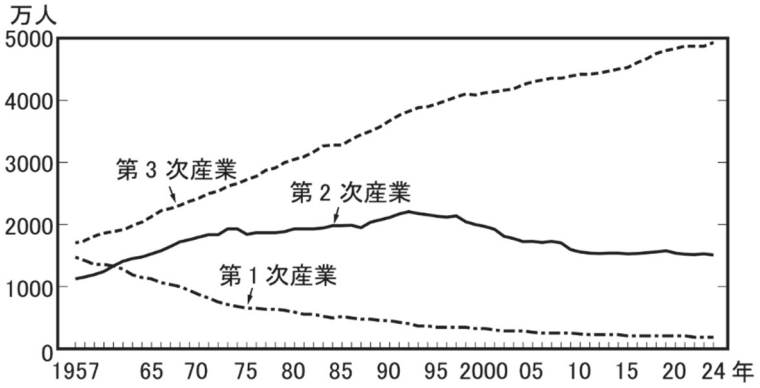
B君　うーん、これを見ると、【資料５】からは「スマート農業を導入しても実際は十分に活用できていない経営体が

多い」という課題が見えてくるね。この課題からは、高齢者が多いため、新しい技術の習得が難しく時間もかかることが考えられるね。

Cさん　ちょっと待って、必ずしもそうとは言えないんじゃないかな。

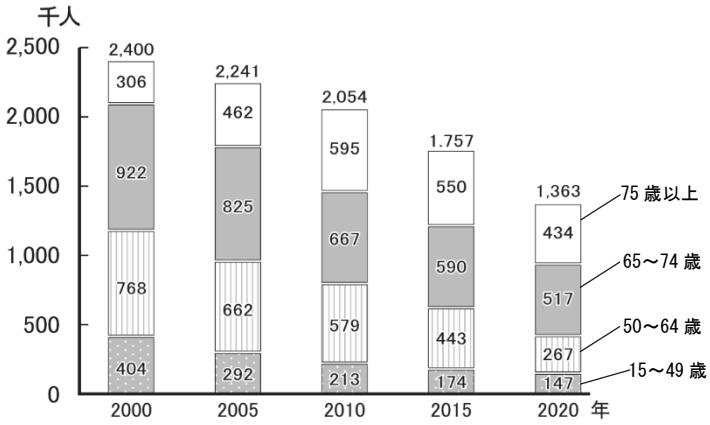
（さらに議論は続く。）

【資料１】産業３部門別の就業者数の推移



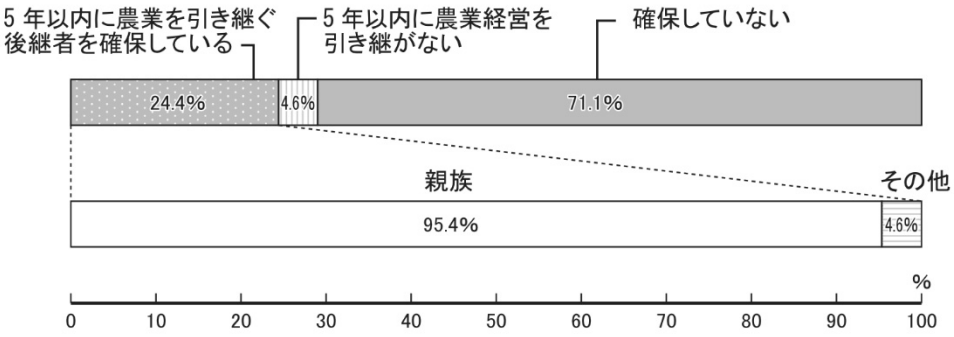
日本国勢図会 2025/26 による

【資料２】世代別農業従事者数の推移



農林水産省の調査結果による

【資料３】５年以内の後継者の確保状況別経営体数



※四捨五入の都合上、100％にならないものがある。

農林水産省「2020 年農林業センサス」による

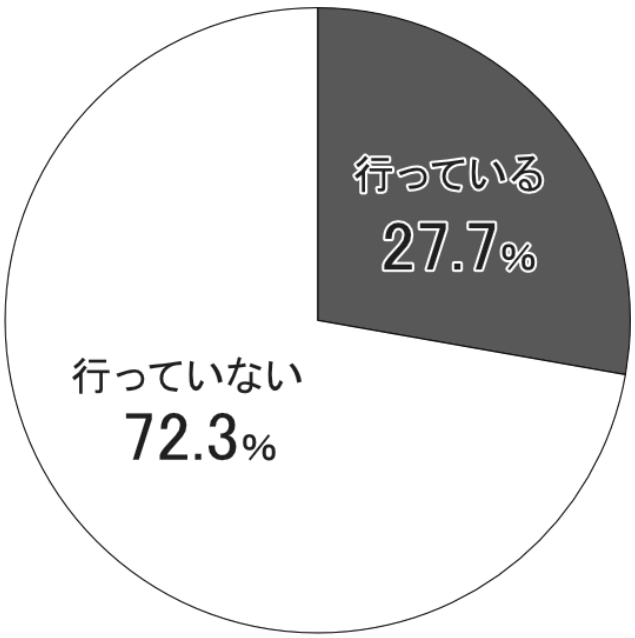
【資料４】ドローンの利用に関する経費の比較

（単位：千円/年）

経営規模		小規模	中規模	大規模
ドローン	機械経費	357	357	357
	人件費	19	56	93
既存の方法	機械経費	70	929	929
	人件費	31	93	155

大分県農林水産部の2022年調査結果による

【資料５】データを活用した農業を行っている経営体数



令和６年　農業構造動態調査結果による

問１　［　Ⅰ　］にあてはまる内容を十字以内で考えて答えなさい。

問２　［　Ⅱ　］・［　Ⅲ　］に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次の**ア**～**エ**から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア　Ⅱ　第二次　　Ⅲ　五倍近く　　**イ**　Ⅱ　第二次　　Ⅲ　二十五倍近く

ウ　Ⅱ　第三次　　Ⅲ　五倍近く　　**エ**　Ⅱ　第三次　　Ⅲ　二十五倍近く

問３　［　Ⅳ　］に入る言葉として最も適当なものを、次の**ア**～**エ**から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア　二〇一五年から二〇二〇年にかけては五十歳未満の世代の減少率が最も大きい

イ　二〇一五年では五十歳未満の若い世代が10％以下

ウ　二〇〇〇年以降ずっと、過半数が七十歳をこえている

エ　二〇二〇年では七十五歳以上の世代が最も多い

問４　［　Ⅴ　］に入る言葉として最も適当なものを、次の**ア**～**エ**から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア　新規に農業を始める人は少ない

イ　若い働き手がほとんどいない

ウ　農業従事者の子どものみ継承できる

エ　新しい作物を作るのは難しい

問５　【資料４】から読み取れる内容として最も適当なものを、次の**ア**～**エ**から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア　経営規模が小～中規模であれば、総合的に見てドローンを用いた方法のほうが経費を安くできる。

イ　ドローンにかかる機械経費や人件費は経営規模によらず一定であり、大規模経営ほど得をする。

ウ　ドローンを用いることで従来より効率化を行うことができるが、ドローンの管理という手間が増える。

エ　ドローンにかかる機械経費が人件費の減少分を超えてしまい、小規模経営では導入した方が損をする。

問６　傍線部「必ずしもそうとは言えない」とありますが、Ｃさんはあるデータが不足していると考えたため、この発言をしました。どのような資料があれば、Ｂ君の発言を裏付ける根拠となりますか。考えて答えなさい。

3　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

※南都（なんと）に、歯取る唐人（※）有りき。ある在家人（※）の、慳貪（けんどん）〈けちで〉にして、利養〈利益〉を先とし、事に触れて、商ひ心のみありて、徳〈財産〉もありけるが、虫の食ひたる歯を取らせむとて、唐人がもとに行きぬ。歯一つ取るには、銭二文にⓐ定めたるを、「一文にて取り〈取らせよう〉てたべ」とⓑ云（い）ふ。①少分の事なれば、ただも取るべけれども、②心様の憎さに、「ふつと、一文にては取らじ」と云ふ。〈絶対に〉〈取って〉〈くだされ〉やや久しく論ずる程に、おほかた取らざりければ、「さらば三文にて、歯二つ取り給へ」とて、虫も食はぬに良き歯を取り添へて、二つ取らせて、三文取らせつ。心には利分とこそⓒ思ひけめども、疵（きず）なき歯を失ひぬる、大きなる損なり。此（これ）は申すに及ばず、③大きに愚かなる事、嗚呼（おこ）がましきわざなり。

但し、世間の人の利養の心深き、事に触れて利分を思ふ程に、因果の道理も知らず、当来の苦報をも弁（わきま）へず、ただ眼前の幻のX にふけりて、身の後の菩提（ぼだい）〈来世の〉の財宝をⓓ失ひ、仏法の利を得ざる事のみこそ多けれ。

※上代は人の心素直に、欲なくして善根（ぜんごん）〈よい行い〉を営みしも、皆まことしき心に住（ちゆう）〈誠実な心をしていた〉しき。

（「沙石集」）

※「南都」……奈良の都。
※「唐人」……唐（中国）から渡ってきた人。
※「在家人」……出家はせずに仏を信じる人。
※「上代」……昔。

問１　二重傍線部ⓐ～ⓓの主語は誰ですか。最も適当なものを、それぞれ次の**ア**～**エ**から一つずつ選んで、記号で答えなさい。（ただし、同じ記号を二度以上用いても良い）

ア　歯取る唐人　　**イ**　在家人　　**ウ**　世間の人　　**エ**　皆

問２　傍線部①「少分の事なれば、ただも取るべけれども」の意味として最も適当なものを、次の**ア**～**エ**から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア　たいした作業でもないので、そのまますぐに歯を抜いてもよかったのだが
イ　身分の低い者のたのみなので、無料で歯を抜いてもよかったのだが
ウ　歯の数が少なかったので、簡単に歯を抜いてもよかったのだが
エ　わずかな金額だったので、無料で歯を抜いてもよかったのだが

問３　傍線部②「心様の憎さ」とありますが、唐人は在家人のどのような心持ちに対して「憎く」思ったのですか。本文中から二字で抜き出して答えなさい。

問４　傍線部③「大きに愚かなる事」とありますが、具体的にはどのようなことですか。その内容を四十字以内で答えなさい。（句読点や記号を含む）

問５　空欄 X に入る言葉を本文中から一字で抜き出して答えなさい。

問６　本文の内容と合っているものを、次の**ア**～**エ**から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア　在家人はとてもけちであったため、虫歯を治す治療費を惜しんで歯を抜くことにした。

イ　虫歯を取る唐人はもともと安価な値段で歯を抜いていたが、在家人がけち(りやく)なあまり値段を高く言った。

ウ　世の中の人はもうけのことばかり考えて道理をわきまえず、仏のご利益を失っている。

エ　昔の人は素直で欲がなく、善良な者ばかりであったので、虫歯を取る唐人と言い争うことなどなかった。

問７　この話から得られる教訓として最も適当なものを、次の**ア**～**エ**から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア　お金のことばかりに気を取られていると、簡単にだまされてしまうこと。

イ　目先の利益ばかりに気を取られると、結果として過(あやま)ちを犯してしまうこと。

ウ　損得勘定(かんじょう)で物事をとらえていると、人の心の動きにまで気が回らないこと。

エ　商売をする側とされる側のどちらの立場になるかで、物事の見方が変わること。